



34

感じたことを 素直に表現しよう！

湊第二小学校

旧北上川河口の東に位置し、南に石巻湾を望む湊第二小学校は、昭和29(1954)年、737人の児童が通う学校として誕生しました。3月1日時点の児童数は259人で、学校の校歌は、高校野球夏の全国大会の大会歌「栄冠は君に輝く」など、数多くの名曲を世に送り出したことでも知られる、福島県出身の古閑裕而氏(1909~1989)が作曲しています。

湊第二小学校には、子ども達が本来持っている感性豊かな心を自然体で表現できるように、校長先生が会長を務める「俳句の会」があります。日常で感じたことや思ったことを俳句にして、いつでも投句できるように「投句箱」が設置され、近年、専門家の間で指摘されている言語力の低下に少しでも歯止めがかかることを期待しています。

自分の思いや感じたことを文章で表現し伝えることは、とても難しいことです。17文字という短い詩の中でも、それを見事に表現している作品も見られ、芭蕉もビックリの傑作が生まれています。そんな作品には、会長さん(校長先生)自らのコメントを添えて、廊下に掲示し表彰状が授与されています。

また、学校では、特別支援学級と通常学級との交流活動にも積極的に取り組んでいます。中でも、毎年恒例の、白きねを使つてもちつき交流会では、地域の方々の協力ももらいながら、今ではあまり家庭で見られなくなった日本独特の伝統行事を共に学習します。子ども達は、古来より受け継がれてきた人々の知恵や技量を学びながら互いにかかわりを深め、共に育つことを学んでいます。

教科書には載っていない貴重な学習を肌で体験し、感じたことを素直に表現することの大切さが自然と身に付いた湊二小の子ども達は、楽しい学校生活を満喫し、今日も一句詠んでいるようです。



▲ 投句箱



▲ もちつき体験

にぎやか家族 ④

河北地区釜谷



左から、愛菜ちゃん、晴直くん、凜くん

《将来の夢》

今野 凜 くん (7歳) サッカー選手
愛菜 ちゃん (4歳) ケーキ屋さん
晴直 くん (1歳) カッコいいイケメンに・・・
(お母さんより)

〈両親から〉

3人仲良く病気をせず元気に明るく育ててほしいです。

今月の表紙から

焼きそばは、私たちの身近な食べ物ですが、なかには「当地焼きそば」があり、静岡県富士宮市、秋田県横手市、群馬県太田市、青森県黒石市が有名です。最近、注目を集めているのが「石巻焼きそば」です。

石巻焼きそばの特徴は、なんと1つでも茶色い麺で、その製法は、一度蒸し上げた麺を水で洗い、もう一度蒸し上げて作ります。二度蒸しすることで麺に含まれる「かんすい」が熱で変化し、茶色くなると言われています。二度蒸しされた麺は香ばしくかつ滑らかにして、だしの吸い込みも良く、味わい深いうまみを漂わせています。

昨年6月、石巻管内の製麺業者や飲食店、愛好者の方が「石巻茶色い焼きそばアカデミー(遠藤多一会長)を設立し、さまざまなイベントに出店するなど広くPR活動を行っています。

今回は、このアカデミーの事務局長、島さんの製麺店取材しました。島さんはこの石巻から生まれた茶色い焼きそばを将来に残していきたいという思いでアカデミーを立ち上げました。とても反響があることに、正直驚いています。麺は、ほとんど手作りで、時間と手間がかかり、大量生産することは難しいけれど、一人でも多くの人に食べてもらいたいという思いを伝えていく予定です。



島 英人 さん
(三ツ股)



サークル仲間

なかま

④

高齢であっても

やる気があれば何でもできる

ボランティアサークル「あじ朗志組」



網地島は、牡鹿半島の西南端にある鮎川港から定期船で約20分と比較的訪れやすく、夏の海水浴場として「網地白浜」が有名な離島です。現在の人口は50人余りで高齢化率も約65%、ちよつとお年寄りが多い島です。

「高齢であっても、やる気」があれば何でもできる」を合言葉に、自分たちの生きがいと島の活性化を図るために、平

成16年8月に有志が集まり結成されたのが「あじ朗志組」です。

網地島の豊かな自然を守るため、毎年、海岸清掃活動と植樹活動などを行い、今では島のサポーターも大勢います。

2年前の夏から、社会福祉活動にも力を注ぎ、児童養護施設に入所している子ども達を2泊3日で島に招き、夏休みの思い出づくりと子ども達の健全育成に貢献しています。

平成20年6月には、これまでの活動が認められ、農林水産省の「立ち上がる農山漁村」の選定事例に認定されました。

代表の桶谷さんは「これからも、あじ朗志組」では、さまざまな活動を計画しています。特に島の環境整備や地域社会へ貢献できる取り組みをしていきたいですね。島外ボランティアとして各種活動に参加してみたい方や、あじ朗志組に興味を持った方は、ブログも見てください」と話していました。
<http://plaza.rakuten.co.jp/ajiroushi/diaryall>

長寿のひけつ



③③

長寿のひけつは「家庭円満」

伊藤 武 夫さん(雄勝地区水浜) 94歳



伊藤さんは、大正3(1914)年旧雄勝町水浜で3人兄弟の二男として生まれました。

尋常小学校を卒業し、カツオ節職人として働いていましたが、28歳の時に戦争へ召集され、満州の前線に配属となりました。

翌年、終戦を迎えましたが、旧ソ連の捕虜となりシベリアに抑留され、すべては帰国できませんでした。現地は、劣悪な環境と寒さで苦難の日々でした。しかし、2,000人の隊員の中から自願して隊長となり、8カ月の幹部研修を受け、先頭に立って任務を遂

行しました。ロシア語は、学歴がないとの理由で教えてもらえず、独学で勉強しました。苦勞して覚えたロシア語は、今でも話せます。

2年8カ月のつらい抑留生活から解放され、日本に帰国してからは、マグロ漁船に乗ったり、養殖業をして生計を立て、町議会議員も3期務めました。60歳を過ぎてから、趣味で600点以上の「一面「獅子頭」を作りました。現在はカラオケが大好きで、レパトリーは45曲あります。歌詞はフルコーラス全て暗記しています。

伊藤さんに長寿のひけつは?と尋ねると「家庭円満、そして毎日の散歩と頭を使うこと」と満面の笑みで話してくれました。

伊藤さん、これからお元気で楽しいお話を聞かせてください。

